

平成14年1月17日

各 位

国立科学博物館
「産業技術史資料の評価・保存・公開等に
関する調査研究」企画推進委員会
委員長 鈴木 基 之

産業技術の歴史 国際シンポジウム
—技術の歴史を未来に役立てるためには—
開催のご案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

我が国の産業技術の発展は、多くの先人達の貴重な努力によって成し遂げられて参りました。このような先人達の足跡を明らかにし、正しく評価し、「20世紀の遺産」として継承することは、21世紀を担う青少年に対し、産業技術の大切さを理解してもらい、創造への新たな挑戦を促すために極めて重要な課題と考えます。

既にご承知のとおり、国立科学博物館では「産業技術史資料の評価・保存・公開等に関する調査研究」を平成9年度から5カ年計画で実施し、企画推進委員会を設置して事業を実施してきました。

本調査研究も5カ年計画の最終年度となり、企画推進委員会では新たな展開を図るため、これまでの研究成果を基盤にした、『産業技術史資料情報ナショナルセンター』構想の中間報告をまとめました。

この度開催いたします「産業技術の歴史 国際シンポジウム」では、我が国の21世紀における技術革新の更なる発展を実現すべく、「産業技術の歴史」に関する調査研究や「技術革新学」といった分野で先駆的な研究活動を成し遂げているアメリカやドイツの事例を紹介しながら、この「産業技術史資料情報ナショナルセンター」が行うべき活動内容や調査研究の方向性について討議したいと考えております。

産業技術の継承は20世紀の成果を21世紀につなぎ、また次世代を担う青少年に送るメッセージを作成します。是非とも、企業、機関、及び産業技術の継承に関わる皆様のご参加をお願い申し上げます。

昨年10月10日に予定しておりました本国際シンポジウムは米国多発テロ事件の影響により延期させていただきましたことをお詫びいたしますとともに、本年2月7日に開催する運びとなりましたので、改めてご案内いたします。

敬具

産業技術の歴史 国際シンポジウム

— 技術の歴史を未来に役立てるためには —

開催概要

国立科学博物館では、平成9年度から「産業技術史資料の評価・保存・公開等に関する調査研究」を実施してきました。この最終年度に当たり、本プロジェクトの企画推進委員会では、これまでのまとめを行うとともに、これまでの成果を基盤にした「産業技術の歴史を未来に役立てる情報拠点」としての『産業技術史資料情報ナショナルセンター』構想の中間報告をまとめました。

この構想では、産業技術の歴史についての「新たな学術分野の形成」、青少年に産業技術の夢と可能性を教育できるような「情報公開」、後世に伝えるべき資料の収集を可能にする「資料情報の管理」などを行うとともに、全国の産業技術系博物館とのネットワーク化や「拠点博物館」などと連携することが提案されています。

20世紀の産業遺産に込められた我が国の独創性を再認識し、次世代に継承することは、現在、極めて重要な課題となっています。このため、海外の「産業技術の歴史」博物館の調査研究や展示公開活動の紹介を行い、新たな学術分野としての「技術革新学」の考え方、産業技術系博物館のネットワークのあり方など、「ナショナルセンター」で行われるべき活動を検討するシンポジウムを開催します。

会 期： 平成14年2月7日(木) 10:00~18:00
会 場： 国際連合大学 ウ・タント国際会議場
主 催： 国立科学博物館「産業技術史資料の評価・保存・公開等に関する調査研究」
企画推進委員会
協 力： 社団法人研究産業協会、全国科学博物館協議会
言 語： 英語/日本語(同時通訳付)

プログラム

- 司 会 佐々木 勝浩(国立科学博物館 理工学研究部長)
- <第1部> 産業文化のネットワーク化について
- 10:00 開会挨拶
- 10:15 基調講演 「ミュンヘンにおける産業技術史研究の特徴」
ヘルムート・トリシュラー
(ドイツ博物館 研究部門長、ミュンヘン科学技術史センター センター長)
- 11:00 基調報告 「産業技術史資料情報ナショナルセンターの目的」
清水 慶一(国立科学博物館理工学研究部室長)
- 11:30 基調講演 「スミソニアン of 新たな挑戦とその展望」
スティーブン・ルーバー
(スミソニアン協会 アメリカンヒストリー 技術史部門長)
- 12:15 昼 食
- <第2部> 産業技術の歴史ナショナルセンターにおける学術研究について
- 13:15 基調報告 「拠点博物館構想に期待するもの」(仮題)
宮田 清蔵(東京農工大学 学長)
- 13:45 特別講演 「ナショナルセンターで取り組む技術革新研究」
吉川 弘之
(国立科学博物館産業技術史調査会会長、産業技術総合研究所理事長)
- 14:30 コーヒーブレイク
- 15:00 パネルディスカッション 「ナショナルセンターに求められる社会的役割について」
コーディネーター 鈴木 基之(「産業技術史資料の評価・保存・公開等に関する調査研究」
企画推進委員会委員長 国際連合大学副学長)
- パネリスト スティーブン・ルーバー
(スミソニアン協会 アメリカンヒストリー 技術史部門長)
ヘルムート・トリシュラー
(ドイツ博物館 研究部門長、
ミュンヘン科学技術史センター センター長)
宮田 清蔵(東京農工大学 学長)
小泉 成史(フリージャーナリスト 元読売新聞記者)
- 17:00~18:00 交流懇談会

産業技術の歴史 国際シンポジウム
参加申込書

◆必要事項をご記入の上、下記事務担当までFAXにてお申込み下さい。

参加者氏名		勤務先 (名称)	勤務先 (住所)	所属 (部課名等)	TEL / FAX / E-mail		
(フリガナ)			〒 -		TEL		
					FAX		
					E-mail		
(フリガナ)			〒 -		TEL		
					FAX		
					E-mail		
(フリガナ)			〒 -		TEL		
					FAX		
					E-mail		

送付先：国立科学博物館「産業技術史資料の評価・保存・公開等に関する調査研究」
事務担当
〒107-0062 東京都港区南青山2-6-12 アマシー青山2階
株式会社ザ・コンベンション内
TEL：03-3423-4180 FAX：03-3423-4108
e-mail：sangyogijutsu@the-convention.co.jp